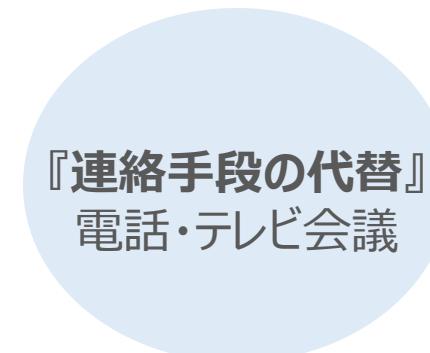
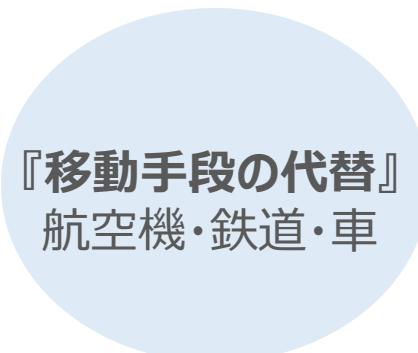


Teleportation

世界中の空間にワンタッチでテレポートしての
コミュニケーションがあたり前になっている世界の実現



世界市場規模：少なくとも1000兆円以上

Teleport-Cloud

iPresence
Teleportation as a Service

サイバー空間でのコミュニケーション
(メタバース/デジタルツイン)



フィジカル空間でのコミュニケーション
(アバターロボット/テレビ電話)

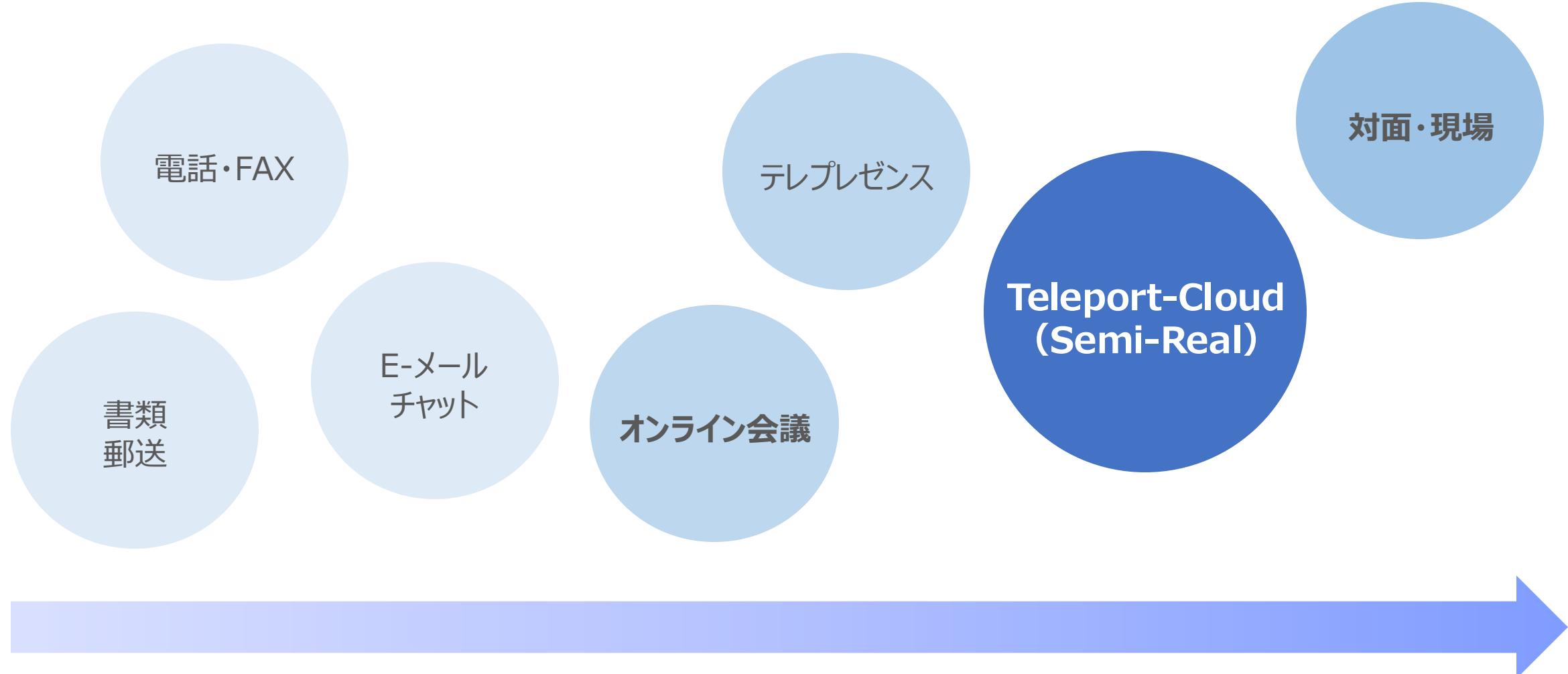


Teleport-Cloudとは、テレプレゼンスアバターロボット・3Dデジタルツイン・AIエージェントなど、先進コミュニケーションテクノロジーを活用した、サイバー空間とフィジカル空間を横断したリモートコミュニケーションを実現する、プラットフォームサービスです。

テレポート技術を用いて、離れている人・機器・空間と距離を問わず関わることで、情報交換の量・質・速度を高めることができます。Teleport-Cloudは様々な業界・産業・領域に対して課題解決を提供し、社会インフラとして貢献する機能を果たします。

Teleport-Cloud
by iPresence

Teleport-Cloudのドメイン (Semi-Real)



「情報の量」「情報の質」「情報の交換速度」

オフィス(役所)領域

働き方の多様化・グローバル化への対応

- リモートワークの自由度向上
- 移動が不自由な人材の受け入れ
- 海外在住人材の受け入れ
- DX対応促進（巻き込み型人材育成）

医療領域

医療リソースの偏在・負担の増大への対応

- 医療拠点間の双方向支援（医師のテレポート）
- 専門人材の負担減（支援員がテレポートで支援）
- 在宅医療の遠隔対応充実（保健士テレポート）
- 遠隔面会の充実（緩和ケア）

介護領域

介護人材不足・高齢者の増加への対応

- 施設従業員のサポート充実（働きやすさ増加）
- 遠隔からの介護施設支援（働き手の増加）
- 高齢者のテレポート勤務によるワークシェア

教育領域

個別最適化された学びの実現と教育格差の解消

- 出前授業としてテレポート講師（機会と質の増加）
- 特別支援教育の充実（自己効力感の増加）
- 入院生徒・不登校生徒への支援

都政課題に直結する提供内容（具体例）

テレロボ利用シーン

01 生徒が使う
入院中や不登校、感染症による自宅療養中の生徒が、遠隔地からクラスに参加することができます。

02 外部講師が使う
特別講師や専門教員が教員不足の離島や中山間地などに接続し、専門性の高い教育を広域に提供することができます。

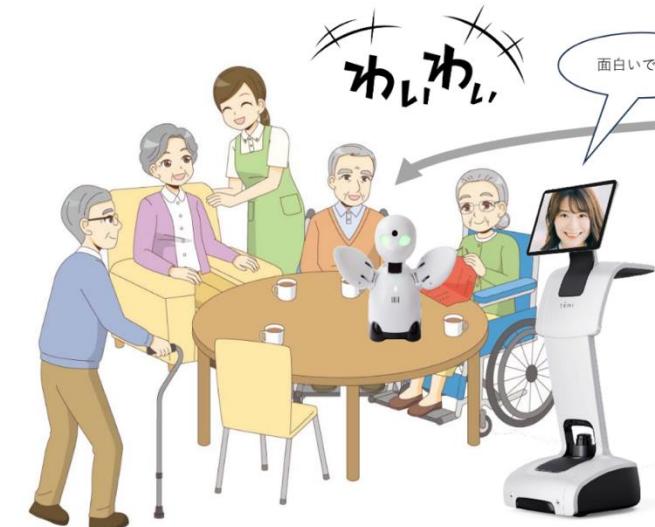
03 教員が使う
子育てや介護中の教員が自宅から授業を行うなど、多様な働き方を支援できます。さらに、教員の指導や育成にも活用することができます。

04 外部生徒(国内外)が使う
海外提携校交流、入学希望者向けオープンスクール、在校生の大学進学や就職相談に利用できるほか、OBOGも参加することができます。

テレポーターと介護施設入居者のコミュニケーション事業企画（案）

東京都内 介護施設

介護施設レクリエーションとして。
普段とは異なる会話をして
新たな発想や学び、良い感情を得てもらう。



東京都内 障がい者雇用施設



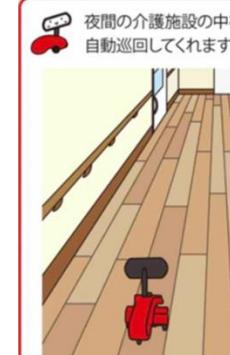
- 業務内容（テレポーター）
- ・ロボを動かしながら楽しくおしゃべり
 - ・介護施設スタッフが別業務に集中する時間づくり支援
 - ・勤務場所は自由
 - ・テレビ電話ができるパソコン必須
 - ・時給1200円

2024年04月19日作成



遠隔面会 kubi
医療従事者より
「kubi は前傾にできるので、横になっている患者さんの顔の向きにあわせて調整できるのが良い。iPad スタンドではこの前傾姿勢ができないので、以前は医療従事者が iPad を手で持て角度を調整し支えていました」

- その他の活用方法
- ・遠隔面会の自動化
 - ・自動応答機能を使って個室の患者様の様子をご家族が遠隔からいつでも確認できます
 - ・医師の遠隔確認も説明
 - ・医師が遠隔から接続し退院説明や、状況の確認に利用することができます



夜間の介護施設の中を自動巡回してくれます！
人を見つけたらお知らせしてくれ、職員がどこにいてもすぐに会話できます！



協働プロジェクト

テレプレゼンス技術を活用したDX変革による
オフィスワーカーの多様な働き方の実現



文京区



iPresence
Teleportation as a Service

iPresence株式会社
<https://ipresence.jp>

2025年03月

実証の様子

iPresence
Teleportation as a Service



撮影：江間有沙氏

実証の様子

iPresence
Teleportation as a Service



撮影：江間有沙氏

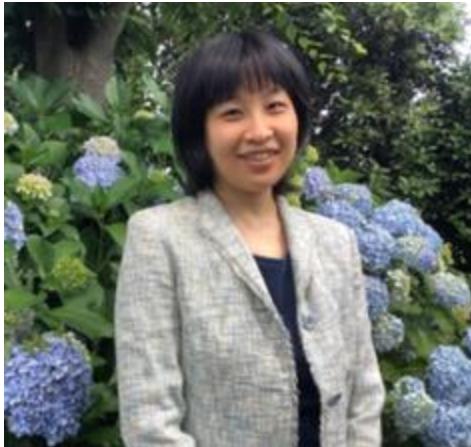
実証の様子

iPresence
Teleportation as a Service



撮影：江間有沙氏

東京大学 東京カレッジ 准教授 江間有沙氏 コメント



➤ 研究概要

情報技術は社会や設計者の（無意識の）バイアスと無関係ではいられず、現代社会が持つ権力構造を再生産してしまいます。そこに光を当てるには、様々な学問分野や産学官民の多様なステークホルダーとの対話が必要となります。人工知能（AI）やヴァーチャル・リアリティ、ロボットなどの最先端技術と上手に付き合っていくには、まずは「私たちはどういう社会に住みたいのか」というビジョンを考えることが重要です。そのための方法論の開発や対話の場を設計しています。

今回の実証実験では、事前に文京区が抱える課題と、iPresenceが提供できるサービスについてのすり合わせが行われていたように思われる。

管理職による「監視」のような印象を懸念する声もあったが、導入側の創意工夫が見られた。アバターの活用や、KUBIの向きの調整のしやすさなど、技術的な対応が可能であるからこそ、現場レベルでさまざまな工夫が施されていた。

また、リモートワークが難しいとされる管理職にとっても、実証実験を通じて遠隔操作による業務の可能性を実際に体験する機会となっていた。このような技術の導入により、管理職であっても在宅勤務が可能であることを示す結果となった。さらに、ロボットを活用するというインパクトのある変化があったことで、現場職員に対しても、働き方改革を積極的に進める姿勢を視覚的に伝える効果があった。

一方で、実際に在宅勤務を実現するには、いくつかの課題も明らかになった。音声調整や複数台の同時操作の難しさといった技術的な課題もあったが、それ以上に、職場の紙文化、遠隔からの資料アクセスの難しさ（共有ができない）、通信セキュリティの問題など、職場環境の整備に関する課題が大きいことが浮き彫りとなった。

今後、業務フローの見直しや、資料の保管・共有方法の改善を進めることで、分身ロボットを使った働き方全体の変革につなげる契機となることが期待される。

- ・プロジェクトは**成功**と呼べる結果になった
- ・文京区テレポート総利用時間**10,000分**（丸20日分）
- ・「**管理職テレワークが可能になる**」と評価
- ・「**インパクトがあり、DX推進に有効**」と評価
- ・iPresenceの**事業拡大の契機**となった。

Teleport-Cloudが働き方を変えます！

導入相談・無料デモはこちらから

[お問い合わせ] <https://ipresence.jp/contact/>

[会社URL] <https://ipresence.jp/>

ご高覧ありがとうございました